

日 時：令和元年12月23日（月）14:00

場 所：潮来市役所 3F 第1会議室

## 1 座長あいさつ

今回で2回目ですが、今回までは拡大する議論をお願いしたい。3回目以降は絞り込みの方に移りたいと思っている。自由な意見を頂戴して大きな計画をつくりたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

## 2 議 事

### (1) 意向調査について（資料1・資料2を事務局から説明）

○A委員：アンケートの集計結果の表に単位がついていないものがあるが、全部パーセントということか。

→資料1は実数。グラフで下の方はパーセントの軸があるが、中には実数の数字を入れている。

○B委員：今説明を受けた感想だが、我々は水郷潮来というと観光で売れているという自負があったが、東京の人から見るとそうではない。茨城県がブランド力最下位だが、茨城県の中で潮来は5番以内に入りかなり高い。笠間や大洗の次あたりだが、茨城県では高くても全体ではこんなに低いので驚いた。我々が考えているよりも若い方は潮来を観光地として捉えていない。潮来を観光地として考えるならばよほど考えていかないといけない。

→私どもも観光という考え方をもっていたが、首都圏の方々の認識とは差異があるのかなということ認識しないとイケないものとする。

○B委員：茨城県では5番以内に入るのに、東京から見ると全く観光と見ていない。いかにも茨城が最下位というのがよくわかる。

○C委員：4ページのグラフだが、実数ということで見にくいというか、見る方が調整しなければいけないのはつらいと思う。総数が集まっていないということだと思うが、卒業後に進学したいかという項目でいうとI高校は7割が就職希望である。高校に来る地元の子は30~40%くらい。実数に近いのは中学生だと思った。棒グラフになっていると同じように見てしまいそうだが、見るのが難しいグラフだなというのが感想。

→今のところ概報という形になっている。期間が短く対応できていない部分があるので、年明けにも整理し、見やすいようパーセンテージで表記をさせていただきたい。

○C委員：高校生でアンケートに答えたのが30%。やはり進学を希望する子達がベースになっているので、実数とは離れているという解釈も必要になってくる。

→お答えいただいた層としては女子生徒の方が多い。参考にはなるが鶴呑みにできないと思っている。

○D委員：アンケートで交通の便がいいという回答が多いが、それにもかかわらず働く場所が少ないということで、事業者や企業等、進出する側からすると、何かしら進出しづらい状況があるのかなという気がしている。一般の方のアンケートもそういう回答が多かったので、企業経営者と

か都内の企業に対して潮来に進出する気があるのかとか、どういうイメージがあるのかなどのアンケートを取ってもいいのではないかと。企業が増えると潮来に働く場所も増えるので、働く場所が増えるとそのまま残る。働く場所がないと人口がどんどん流出していってしまう。企業の方が潮来についてどう思っているのか、どういう状況であれば潮来に進出するのかを調べてみてもいいのではないかと思う。

→私も企業誘致推進室を持っていて、昨年 I C 周辺で大規模な流通施設の建築が可能なので 100 社にアンケートとったところ、高速道路のすぐ近くだがあまりいい返事がなかったのが現状。ただ今年に入って鹿島臨海工業地帯から東京の方に資材の搬出とか、出入口になっているので I C 周辺に建物の建築について相談が入っている。ただし工場関係の方は、潮来の場合、昭和 43 年くらいの鹿島臨海工業地帯の開発のからみがあり線引きしているので、建物が建てられる場所、建てられない場所というのがある。潮来の工業団地は企業が埋まっているが、若干残っているところもあるので、工場の企業誘致を進めているところで、今年ももう少し多いアンケートをとってみようと、企業誘致推進室では考えているところである。

○D 委員：土浦支店で県西の地区も持っているが、〇〇町の方が流通とか倉庫の関係で企業が進出しているようで、人を集めるのもパートさんで時給 2,000 円とかすごい金額で集めているという話を聞く。割といい給料で雇っているようだが、線引きの話は難しいかもしれない。大きい話になってしまうが、潮来 I C から鉾田までの高速の整備の状況はどうなっているのか。

→まだ聞いていない。

○A 委員：資料 1 で潮来市に期待する施策。中学生は文化スポーツ活動が多いが、中学生がどんなことをイメージしているか分かるか。

→詳細などは把握していない状況です。今後、学校教育課や生涯学習課と連携しながら、検討を図っていきたい。

○E 委員：東関東自動車道の開通予定は示されていないのか。

→先日の 12 月議会で一般質問であったが、国の方に問い合わせた中でも見通しは立たないということである。

○委員長：数値だが、資料 4 ページのところもわかりづらいので修正をお願いしたい。それから、ご質問にあったように五霞の話もあったが、埼玉に近いということや圏央道のことなども見て、比較しながら企業は選んでくると思うので、外からの目線でのトータルバランスが大事かと思う。

## (2) ヒアリングについて（資料 3 を事務局から説明）

○委員長：資料 3 まとめた部分で見ると整理されているが、個々のコメントに迫力があるので、それを生かしながらつくっていくのかなと思う。特に市外の視点や外国人からの視点が大事になる。

○D 委員：5 ページのところうちの会社名が出ているので、私の直感では 8 割、9 割くらいは無担保無保証人になっている。創業関係については県の創業資金とかあるので、保証協会は金額が大きければ別だが、付かないケースがほとんどかなと思うので、全体的に PR が不足しているという印象を受ける。

○委員長：日本全体で起業については応援しているので、そういう感じはする。取り組みはできている。

○B 委員：資料 3 の市役所の職員の 1, 2 年目の方。すごい良く現状を見ているなという気がする。それがどのように他のアンケートの結果と結びつけて行政に反映できるか。それは中堅や上の幹

部職員の力の及ぶところになると思う。もう1つ、皆、悲観的なことが多いが、ここに夢が語られていればなおいいと思う。とても色々な意見が出て良いという感想である。

○委員長：若い人観察力あるので素直に書いてくるし、貴重な意見だと私も思う。

○F委員：今の資料のまとめ、市の職員には今のキーワードがちりばめられている。私はIT関係の仕事をしているので、それを中心に見ていたがAI化というのにも出ているし、ITでつくった工場が限界と出ていたり、テレワークやクラウドや学習が出ているが、外部環境については気づきの部分が出ていて、今後はそれを考えて実行する人が大切。こういう働き方になるというのは、自分たちが思っているより急速になるのではないか。気づいたからどうにかして考えて実行するような部隊とか、実行するような議会のような大きいものではなくて、小さな市民で若いなどが週1回会って、解決策を見出すようなものができたらいいかなと思った。

→おっしゃる通りだと思う。国などのバックアップもあり、総務省を中心にAI・ICT関係等も近隣もそうだが、全国自治体の動き出しもそろそろ出ている様子がある。そういうところも学びながら、引き続き環境整備も効率化を狙うのも、行革も狙うのも大事だが、環境整備を整えていければと思っている。

○F委員：業務効率化など素晴らしいことをされていると思う。私が言った意味はちょっと違って、AIを使う人づくり、クリエイティブな。AIはAIだけでは動かないので、それをどうにかして使うという人づくりがここに出てきたらいいなということを申し上げた。AIを使う人づくりのチームができたらいいと思う。クラウドで仕事がテレワークでできるようになると、この資料がクラウドにあるから、家でも場所を選ばず仕事ができるようになる。そういうのは、まだまだ私達も研究していかなければならない。ペーパーレスも業務効率化も、そのためにクラウドがあって、クラウドが使いこなせる文化になったらテレワークが家でできてという。それは誰かが考えて仕掛けていかなかったら気付いたまま終わってしまうのかなと感じた。

→そう考えると市役所では、少しずつではあるがペーパーレス化に臨んだり、財政課を中心に全職員が共通するパソコンを通じて、一人ひとりにAIとか業務効率化などを投げかけさせていただいているところ。人材の育成も踏まえて少しずつではあるが前向きに取り組んでまいりたいと考えている。

○委員長：AIについてコワーキングスペースなどをつくって若い人が残りやすいような環境をつくって、ただ、AIって、単純作業は機械がやってくれるのでそういう道をつくるのも大事だと思っている。

○F委員：私もそうです。なかなか慣れない。でもよその会社と仕事をすると、やっぱり進んでいるところは進んでいる。

○A委員：資料3の説明と資料1にあった中学生と高校生、若年層のこれから10年を見通したとき。10年の希望。これからの希望のところには、子育ての子どもに関心や興味を伸ばす教育というように、子どもを中心にするという要望が書かれているが、資料3の中では子育てがすごくばやけているという印象で、若い職員ということで具体的には浮かばないとは思いますが、業務を通じて水郷への理解を深めることや、新しい働き方に対応した教育が必要のような、現状にすぐに対応するようなこと、子育て支援の充実のようなぼやとした書き方とか、教育はコミュニケーション能力を高めたいとか、先ほどの土屋さんからあった、AIを使いこなせるような人を育てるのかというような、今やって2年後に役立つというような、そういう付け焼き刃的な教育ではなくて、地頭を鍛えるみたいなことが必要なのかと思うので、どういうことを視点にするのか、ど

んな子供たちを育てるのか明確にしないといけない。自宅だからできることできないことがあり、具体的には子どもたちも、もっと外遊びをしたり、自由に遊ぶような時間をつくらないと地頭が鍛えられないということが研究の結果として出ていることなので、早期教育を掲げるよりは、水郷だし自然もあって都会にはない広さや土地を使ってできる教育、それによって子どもたちがコミュニケーション能力だったり、創造性を持った人材が育つというような、長いスパンで考えるような、お金を出すとか今困っている人を助けるなどの短いスパンでの支援はもちろん大事だが、長いスパンで教育や子育て支援を考えることが必要かと思う。

→そういう視点が大切ということは認識している。昨年度、総合計画策定の際にも、いろいろと議論させていただいたところでもある。A委員のお話にあった件は、現在、子育て支援課において、子ども子育ての計画を策定しているところでもある。教育の部分については、昨年度、教育振興計画を策定した。個別に今の教育・子育てについては、十分に協議されるものと思っている。

○委員長：A委員のおっしゃることはその通りだと思います。大学に行っても、世の中の傾向はいい大学に行こうだが、大学にもテクニックしかできない人間と頭がいい人間がいて、後者の方が伸びる。社会に出て活躍するのは、学校の成績が悪いが後者である。そこは理解している。そこを少しずつ直していく計画になると思う。

### (3) 施策評価について（資料4を事務局から説明）

○委員長：粗いですが行政と市民目線から評価したものです。アンケートの評価なので、皆さんとは多少温度差があるかと思いますが、担当課は大変かと思いますが、議論を呼ぶいい資料かなと思っている。

○B委員：市民の評価の仕方はどのようにしたのか。56項目を1つ1つ質問していったのか。

→第1回の会議でもご説明したが、56項目すべて聞いて評価をしていただいた。4段階評価で行っている。

○委員長：29は、市の評価4だが、高校生とかはわりと辛い評価になっている。

○C委員：これは1項目だけで、高校との絡みというのは。行政なので小中学校の方に手厚くなっている。それが私どもの敗因でもあるが、この前、工業団地の見学というのをさせていただいた。去年はほとんどなかったが、地域を盛り上げるようなことで、いろんな方と参加することができるようになった。もう少し上がるかなと思っている。

○委員長：よろしいでしょうか。一旦、締めさせていただきます、次の説明に入りたいと思います。

### (4) 計画の方向性について（資料5を事務局から説明）

○委員長：ポイントは基本目標4つを、できれば大雑把にご理解ご認識いただければと思う。4つの基本目標と3本の矢は第1期の地方創生の考え方。数年経ってこれから第2期を立てるのだが、第1期の計画を受けながら6つの視点が書かれている。これらを入れながら6つの課題を整理してということ。ご質問等あればお願いしたい。

○G委員：4つの基本目標というのは第1期で設定されていて、今回それを引き継ぐという理解でよろしいか。

→第1期の方は、国は4つの目標だったが、潮来市は3つに集約して構成している。その3つを継承するか4つにするか検討していないが、今のところ4つで考えた方がいいと思っている。ただ、説明があったように、20日に国の方から閣議決定で方針が出ているので、そちらだと新たに4つ

の基本目標の他にまたがる目標が出ている。その辺を含みながら構成は検討したい。

○委員長：基本目標の4種類というのは、国の方から示されているということです。コメントが2つあります。1つ目はまとめ方だが、率直に申し上げて、資料1～4までは非常に興味深い、良い資料だったと思うが、そこで得られた視点とかデータとかが、ここにどう反映されているかわかりづらいと思っている。策定過程ではきっと反映していただいていると思うが、このブラッシュアップしたものだけを見た時に、市民の目には本当にそんなことをしているのか分からない、見えないということが問題だと思う。具体的に言うと資料3の1ページに書いてあることや、A3資料で市役所の中の職員が一生懸命に分析してくれていることが、これをどういうふうに集約していったらいいか、この資料の3ページの四角いこのボックスの中に入っているのかというのが見えない。見えるようにするのがとても大切。四角のボックスだけを見てしまうと一般論だけ言っているとかわかってしまうことがとても残念。資料3に書かれていることは、本当に迫力のある興味深いことなので、市民の方もこれを見ていただければ共感していただけたところがあると思う。その共感を得ると言うことが、計画の実行性を伴うということでも大事だと思うので、作りが悪いと言っているのではなくて、ここに至るまでのプロセスみたいものも見えるようにしたらいいのではないか。もう1つが今日のアンケートの結果とヒアリングの調査の結果を見比べると、ちょっと乖離があるような気がしている。アンケートの方は冷めた目で回答がある気がする。一方で資料3などに書かれているヒアリング結果はそれとは違う視点で熱いとまではいかないが、愛着を持って潮来に暮らしているというような感じで見える。そこで思うと、やはり潮来に住んでいる人たちの潮来の参加意識や地元への愛着意識には差があるのではないかという気がする。是非この計画についても、市民の参加をいかに参加してもらうことにするかということに力点を置いていただいて、最後、計画づくりだけでなく、その施策を進めるうえでも、いろんなところで市民の参加を進めていくというのは大事だと思う。例えば、資料4みたいな評価も、大変は大変だが、時々やるのではなく、できたら毎年市民の方に評価してもらって、市役所の認識をどんどん、こんなことがありますよというのを毎年やってみると、そんなことでも市民に参加してもらうという、そういう工夫をしていくといいのではないか。

→ご指摘いただいたプロセスの明確化についてはご指摘の通りだと思う。資料5については、要点を絞ってさせていただいているが、これから計画書に移るにあたり、資料1～4の施策を、これから各部署とヒアリングしながらブラッシュアップするが、そちらについては、若い職員の方がこんなことを思っているということも含めて整理したい。今回、特に若い職員については20年後どうなっているか問いかけをしながら意見を聞いている。想像してもらいながら聞いているので、そういった意味も含めて施策をすり合わせさせていただきたい。

○H委員：高速バスの利用。潮来のバスターミナルも大分整備されたが、私のイメージとしては、ハブ化して地域の要とならないか、今もそういう施策はしていただいているが、もう少し潮来のバスターミナルを整備できないのか。例えば、菖蒲の季節など人が集まるには狭すぎるし、冬は寒いし、それを中心に地域交通網の整備をしていきたいと思う。

→高速バスターミナルのハブ化の計画は、そういった拡張を進めているところ。バスターミナルの飲食等については規制等があり難しい。本市バスターミナルのハブ化という考えもあるが、公共交通と合わせながら、現在、鹿嶋市と行方市と連携しながら利用していただいている。また、室長も先ほどお話をさせていただいたが、あそこは企業誘致をさせていただいているところなので、ハブ化、企業誘致、公共交通、そういう利便性を高めながら進めているところである。

○H委員：いろいろ規制があつてできないということを市民にアピールした方が良いのではないかと。市はやっているんだよ、ということがなかなか見えてこないのをお願いしたい。

○委員長：今の質問等を基本目標4に何か書けないのか。2つ理由があつて、1つは地域と連携する会議、周りをちゃんと生かしているかということだが、かなり大事な発想なので。2つ目は情報技術を活用したという話があつたが、試案を含めていろんなことができるので、それを追加していただいてもいいのかなと思う。

○E委員：IC周辺の法規制ということですが、農地法、農振法、都市計画法、この規制がどうにもならなくて、今は商業施設とかが全く門前払いの状況。高速道路は農地を分断してできるのですが、市とか県レベルでは、どうにも規制を打破することができないのかな。ただ、先ほど部長おっしゃっていたように、都市計画法の中での唯一のものが規制から外れてということなのだが、おっしゃるようにテーマパークみたいなものできないか。〇〇市では〇ICのところは15ヘクタール使ってテーマパークをつくるということ。あそこは都市計画法とか市街化調整区域とかはないのかもしれませんが、農振法、農地法はある。潮来には3つ規制がある。法律だって人間が作っているのだから、時代とともに変えていかないといけない。この市は素晴らしい市だと思うが、実際まちひとしごとの3つは、いかに企業誘致をして人口を増やして、働く場所をつくって、子どもたちが潮来に住みたいと思うのが、究極の目的だと思うが、そのためには1%の岩盤規制を何とかしないと、話し合いが終わってしまう。全ての計画の邪魔をしているといつも思う。邪魔するような規制を、〇〇では全県で廃止したが、茨城県もそういう方向がとれないものか。

→前回の会議で、E委員からお話をいただいたことだが、お気持ちは重々承知しているところ。私どもも、インター周辺、更にはバスターミナル周辺をにぎわいのあるところ、そしてそこから街中へ人を誘導していきたいという考えをもとに、茨城県や国とも、更には〇〇市とか話を聞いているが、なかなかE委員から話があつたとお壁がある。引き続き、その壁をクリアした市町村を学ばせていただきながら、研究をしていきたい。

○E委員：特区という言葉もあるので、なんとか市が限界集落に向かっているという言葉もあるので、法律を変えていただければ発展するのは分かっている、法律が邪魔している。

○委員長：いろいろ難しいですね。ここだけ弛めるといふのはない、全部弛めざるを得ないので、すごく激しい局面になる。その戦いで日本全体の国土が疲弊してしまうというのが、規制を強化しているので楽観はできない。

○B委員：地方創生というのは、潮来市が、どう頑張るかというのはあるが、近隣市町村との競争でもあるのかなと思います。そういう意味で今回のアンケートでも、市民が近隣の7市町村でどのようなイメージを持っているのかということ、潮来は鹿嶋・神栖・香取があつて4番手につけている。すぐ下には、銚田と麻生が迫ってきている。地域に戻って農業をやるとか、そういうのは1つの戦略としてある。それが上手くいっていないと新聞に出ていた。その中であとからついて来ようとしている行方、銚田、稲敷、農業としては人気を高めてきている。知名度がぐんぐん上がってきている。おろそかにしてられない。そういう中で潮来は畑作もないし、水田は何かいいお米がとれているという状況はあると思いますが、そこで最後の基本目標4の日本一の水路のまちというのが、どういうふうに出てきているのかという感じがする。今まで私は聞かなかつたが、新しくできたのか。

→以前から、水路をきれいにしていこうという話があり、日本一の水路にしていこうということである。

○B委員：前から日本一の水路にとは、歴代の市長は言っていたが。

→冒頭にアンケートでご紹介があった水郷という言葉を広辞苑で引きますと、三番目の意味合いで潮来と佐原を中心とする水辺の称、というように水郷の文字が紹介されている。そのようなことで、私ども潮来市は、われわれ職員も水郷に自信を持って整備を進めていきたいという思いがある。市長の方からも、前川はおよそ3kmある。そのあと大洲の閘門から水門まで4kmある。前川水域に関しましては完了しているが、潮来土木事務所と一緒に河岸の整備や橋の掛け替え等々を進めているところ。大洲の閘門から潮来の土地改良区と先日、テレビ東京の池の水大作戦等々で環境整備をさせていただいた。合わせて7kmの水路から鹿島神宮、息栖神社、香取神宮と、これまで水郷潮来が江戸時代からにぎわってきたという過去の事実もある。水郷の地で都会の疲れを癒していただきたい、という意味合い。市長の日本一の水路をここによみがえらせるという思いのものである。

○B委員：今までよりももっと歴史を踏まえてという感じですね。

○J委員：全般的な印象なのですが、自身の興味・関心の低いもの、接触する機会のないもの、その施策について知らないものは評価が低くなるので、事業仕分けがあるように、やるのかやらないのかだけではなく、まず知ってもらうことが必要。その施策を知ってもらうことによって何気なく参加していた学校行事が何々事業という、1つの大きなテーマを背負った施策だったんだなと分かれると評価が上がることになるし、やっていることがみんなに認められることになると思うので、まちひとしごとでこれから策定する事業も知ってもらう、知らないことを気づかせる、そういうふうな目線での取り組みもぜひやっていただければいいのかなと思います。

○委員長：私もJ委員がおっしゃるように、気付いてもらうためにもメリハリつけた方がいいのかなと思う。国から出て来る基本目標とか施策は一般的なもので、全部突っ込んでしまうと何が何だかわけわからなくて、後はどんどん切っていくという作業が必要かなと思う。それによって知ってもらう、潮来市の計画だと市民の認識高まりますので、今日の4つの線の目標に関しても、もう少し、今お話あった水郷も含めて少し潮来らしさを追求していただければと思う。特に基本目標1のところ、テレワークやコワーキングスペースって、どこにいても出てくる。つくばも出てくる。つくばでさえ上手くいっていないので、多分逆にきついと思う、書いても。そうではなくて、大事なところをしばって進めていくというのが大事かなと思うので、そうしないと皆さん認識して、計画が入らないと思いますので、この4つの目標、方向軸はいいと思うが、シェイプアップしていただければと思う。

## (5) その他

\*事務局から今後の策定スケジュール等の説明